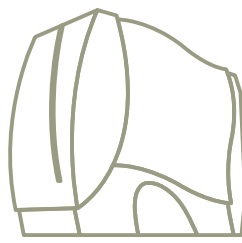


## REPORT



## 2023

S o m p o M u s e u m o f A r t

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行して美術館も通常運営に戻りつつあるなか、春は「ブルターニュの光と風」、夏は「山下清展」、秋は「ゴッホと静物画」、冬には公募展「FACE展2024」を開催しました。とくに「ゴッホと静物画」は、2020年に新館開館記念として予定するも新型コロナウイルスの影響で中止となり、3年越しに実現した待望の展覧会で、多くの皆さまにお越しいただきました。

## ゴッホと静物画 伝統から革新へ

れた人間を描く肖像画が分野としては高尚なものとして扱われていました。

興味深いことに、ゴッホも初めは静物画をさほど重要なものとして見ていませんでした。人物を描く画家を目指したゴッホにとって、静物画は油彩の技法を会得し色彩の研究を行う、いわば修行の場でした。しかし食器、野菜や果物、花の静物画を描きながらゴッホは探究を重ね、強烈な色彩や多様な筆触など独自のスタイルを身に着けます。さらに自ら「自分にはひまわりがある」と述べた花の静物画《ひまわり》を描くに至ります。

本展ではゴッホによる25点の静物画に加えて、クラス、ドラクロワ、マネ、ルノワール、セザンヌ、ゴーギャン、ヴラマンクなど、17世紀から20世初頭の他作家による静物画を併せて展示し、静物画の変遷と共に「ゴッホがゴッホとなる」過程を紹介しました。



フィンセント・ファン・ゴッホ《アイリス》1890年  
油彩・カンヴァス 92.7×73.9cm  
ファン・ゴッホ美術館、アムステルダム  
(フィンセント・ファン・ゴッホ財団)  
Van Gogh Museum, Amsterdam (Vincent van Gogh Foundation)

### 【展覧会データ】

展覧会名 | ゴッホと静物画—伝統から革新へ  
会 期 | 2023年10月17日(火)—2024年1月21日(日)  
主 催 | SOMPO美術館、NHK、NHKプロモーション、  
日本経済新聞社  
協 賛 | SOMPOホールディングス  
特別協力 | 損保ジャパン  
協 力 | KLMオランダ航空、日本航空  
後 援 | オランダ王国大使館、J-WAVE、新宿区

「静物画を知らなければゴッホは語れない」をキャッチコピーのひとつに掲げた本展は、文字通り「静物画」とフィンセント・ファン・ゴッホ(1853-1890)との関わりに焦点をあてた展覧会です。

さて、静物画というと「地味」で「つまらない」、あるいは美術史をかじった人ならば「絵画のヒエラルキーでは下位」などマイナスのイメージがあるようです。実際に19世紀フランスを中心とするアカデミズムの考え方は、神話画や歴史画のように見る者に教養を求める絵画、そして神の姿に似せて創ら

## オリジナルグッズのご紹介



上: アイリス缶クッキー 1080円(税込)  
右: 活版印刷のレターセット  
ひまわり アイリス 各600円(税込)

ゴッホと静物画展では、展覧会オリジナルの商品を多数作成しました。

本展の目玉であるゴッホ《アイリス》を使用したアイリス缶クッキーは、展覧会ロゴ入りです。活版印刷のレターセットは、《アイリス》と《ひまわり》をモチーフに、便箋はパレットをイメージしています。





# ブルターニュの光と風

## 画家たちを魅了したフランス〈辺境の地〉

**豊**かな自然とケルトの伝統を色濃く残した独自の文化で知られるフランス北西部の半島、ブルターニュ。本展では、この地に魅了された画家たちによる作品を通じて、同地の歴史や風景、風俗を幅広くご紹介しました。ブルターニュを主題とする絵画作品の充実度ではフランス随一を誇るカンペール美術館の所蔵品を中心に、45作家による69点の油彩・版画・素描で構成した本展では、日本ではなじみのない〈辺境の地〉が放つ魅力、「自国の内なる異世界」として「発見」していった19・20世紀の画家たちの好奇の眼差しを追体験するようにご覧いただく機会となりました。

展覧会は「第1章 ブルターニュの風景—豊かな海と大地」「第2章 ブルターニュに集う画家たち—印象派からナビ派へ」「第3章 新たな眼差し—多様な表現の探求」の3セクションから成り、ブルターニュが提供する様々な画題をテーマ別に整理することで、豊かな自然風土と人々の暮らしの様子を概観しながら、同時に19-20世紀に登場する多様な絵画様式の展開も緩やかに辿れるよう構成しました。メインビジュアルに採用したギュ作《さらば!》



アルフレッド・ギュ 《さらば!》1892年 油彩・カンヴァス 170×245cm カンペール美術館 ©Musée des Beaux-Arts de Quimper, France

### 【展覧会データ】

展覧会名 | ブルターニュの光と風  
画家たちを魅了したフランス〈辺境の地〉  
会 期 | 2023年3月25日(土)—6月11日(日)  
主 催 | SOMPO美術館、フジテレビジョン  
協 賛 | SOMPOホールディングス  
特別協力 | 損保ジャパン  
後 援 | 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランス 日本、新宿区  
企画協力 | ホワイトインターナショナル



アンリ・モレ 《ボン=タヴァンの風景》1888-89年 油彩・カンヴァス 39.5×59.5cm カンペール美術館 ©Musée des Beaux-Arts de Quimper, France

をはじめ、日本ではなかなか見ることのできない“サロン系画家”たちが描く迫力の大画面は、ブルターニュの厳しい自然と人々との共生の姿を教えてください。他方で、数多くの知られざる画家たちが様々に描き出すイメージは、ゴーギャンやポン=タヴァン派にとどまらず、当時の画家たちにとってブルターニュが豊かな着想源であり続けたことを今に伝えています。



## 2023年度の鑑賞教育活動と福祉分野への取り組み

**新**宿区立小中学校を対象とした「対話による 美術鑑賞教育」支援事業は16年目を迎えました。コロナ禍の窮屈な鑑賞会から抜け出し、子どもたちは本物の作品と出会い、「見て」「感じて」「考えて」「話して」「聞く」鑑賞活動を楽しみました。

2023年度は小学校29校(全29校中)・中学校7校(全10校中)の授業支援をすることができました。新しい取り組みとして、多

国籍の児童・生徒が取り残されない鑑賞会を目指し、対話のツールとして英語・韓国語・中国語(簡体字・繁体字)の「多言語



鑑賞カード」を作成し、展示室での活用をスタートさせました。

ボランティアガイドスタッフは今年度15期生12名が新たに加わり、総勢80名で活動を行いました。夏の講演会では水谷裕子氏に「傾聴」をテーマにお話いただき、子どもとの対話の時間にもっとも大事にしている「聞く」姿勢を学び直しました。

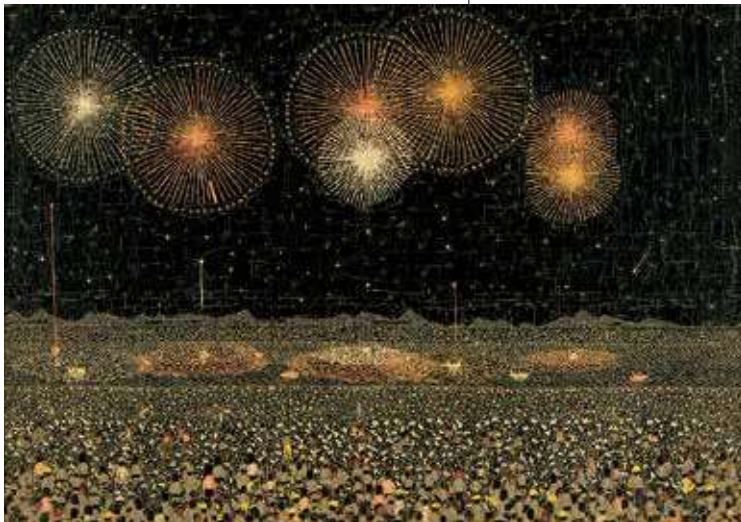
また博物館法改正を踏まえ、今年度から高齢者福祉施設などでの鑑賞を想定した動画シリーズ「SOMPO美術館 アートにふれる10分間」(第1回: ゴッホ《ひまわり》)を作成し、福祉分野への取り組みをスタートさせました。





# 生誕100年 山下清展 百年目の大回想

**山**下清(1922-1971)は放浪の天才画家として知られており、懐かしい日本の原風景や名所を貼絵で表し、多くの人々の心を捉えました。生誕100年を記念する本展は、代表的な貼絵の作品に加えて、子供時代の鉛筆画や



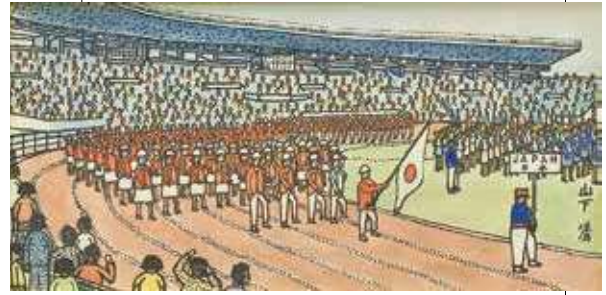
山下清《長岡の花火》1950(昭和25)年 貼絵 山下清作品管理事務所  
© Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2024

後年の油彩、陶磁器、ペン画などを展示し、山下清の生涯と画業を辿るものです。

日本各地を自由気ままに旅した清は、驚異的な記憶力を持ち、スケッチやメモを取らずとも、旅先で見た風景を細部まで正確に思い出すことができました。ときおり旅から戻ると、高い集中力を発揮して、手で細かくち

ぎった紙片を緻密に貼り合わせることで、超絶技巧のとも言える貼絵を制作しました。油彩やペン画を含めた作品約190点、そして旅に持参したリュックや浴衣などの関連資料により、49歳で逝去するまで精力的な活動を続けた山下清の芸術家としての真の姿をご紹介します。

関連イベントとして、作家の甥である山下浩氏による講演会「家族が語る山下清」を本社ビル2階大会議室にて実施、130名を超える参加者から大変好評をいただきました。本展は各種メディアからの注目度も高く、8月後半から閉幕まで連



山下清《日本、しっかり》1964(昭和39)年頃 水彩画 東京都  
© Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2024

日、入館を待つ来館者が長蛇の列をなしたため、日傘の貸出やミスト発生器の設置、さらに隣接するビルの公開空地を待機場所として開放するなど、運営上の対策を行いました。来館者からは、本展をきっかけに山下清の卓越した貼絵と、本来の人柄に触れることができたという好意的な感想を多くいただきました。



講演会の様子

### 【展覧会データ】

展覧会名 | 生誕100年 山下清展 百年目の大回想  
会 期 | 2023年6月24日(土)―9月10日(日)  
主 催 | SOMPO美術館、朝日新聞社  
協 賛 | SOMPOホールディングス  
特別協力 | 損保ジャパン  
後 援 | TOKYO MX、新宿区  
協 力 | 山下清作品管理事務所  
企画協力 | ステップ・イースト

**山**下清展開催に合わせてワークシートキットを作成し、来館した小学生に配布しました。展示作品に関連した技法を楽しみながら体験することで、作家や作品への理解を深めてもらうためのものです。これまで当館では、夏休みと重なる様々な展覧会でワークシートを活用してきました。



ワークシートキット完成例

## 夏休みのワークシートキット配布 —高齢者ホームで美術を楽しむイベントにも活用

また、博物館法改正の施行に伴い、美術館の福祉への貢献を目指して高齢者ホーム(グループ会社「SOMPOケア」の施設約450か所)にも同キットを届けました。各ホームでは「子ども食堂」というイベントを通じて、訪れた小学生と入居者が一緒に美術を楽しみました。

キット名は、「ゴッホの「ひまわり」ではり絵カレンダーを作ろう!」です。山下清が得意とした貼絵を題材にしました。当館収蔵のゴッホ《ひまわり》の線画がプリントされた紙に、色紙をちぎって貼りつけ、数字や予定を書

き込んでひと月分のカレンダーを作ります。このキットは、当館のホームページからもダウンロードできるようにし、3分間の作り方動画も作成・公開しました。



# FACE2024 グランプリ

## 津村光璃 Hikari Tsumura

### 《溶けて》



2000年生まれ 佐賀県在住  
2021年 第103回佐賀美術協会展 鈴木照治賞  
「HAHA展」ギャラリーシルクロ・佐賀  
2022年 「あお展」ギャラリーシルクロ・佐賀  
第43回九州新工芸展 佐賀新聞社賞  
2023年 第44回九州新工芸展 NHK佐賀放送局賞  
2025年 佐賀大学大学院地域デザイン研究科修了予定

©2023 NAHO Amamoto

**12** 回目となるFACE2024は、前年比11.3%増の1,184点  
が出品され、入選倍率は第  
2回目以降で最も高い15.2倍となりました。  
五次に及ぶ入選審査では、個人情報(作  
者名、作品名、年齢、性別、所属など)を

伏せた作品本位の審査が行われ、審査  
員が作品1点1点に真摯に向き合い、挙  
手で入選78作品を決定しました。入選者  
は応募時年齢17歳から73歳、平均年齢  
38.5歳。続く二次に及び賞審査では、投  
票および審議により入選作品から9作品の  
受賞作品を決定し  
ました。

グランプリ受賞者  
の津村光璃さんの  
作品では、綿布に  
蠟けつ染めの技法  
によって、染料が広  
がり溶け合う画面  
が生み出されていま  
す。津村さんは、染  
めの物質感、イメー  
ジのきわに現れる  
滲み、色の微妙な  
むらや複雑な重なり

により感じられる「奥」の空間に魅力を感じ、  
「偶然性を介入させた不可思議な画面作  
り」に興味をもって取り組んでいます。布本  
来の白い部分を残し、明るい黄色で軽やか  
なイメージを与えるとともに、触手が伸びてい  
る不気味さ、濃い紫色による重たいイメージ  
も入れることで、相反する印象が混在し溶  
け合っている画面をあらわしたとのこと。

抽象表現がFACEグランプリを受賞  
するのは12回目にして今回が初となりま  
す。染料のにじみや広がりが生み出す繊  
細かつ力強い作品の表現力が高く評価  
されました。

#### 【展覧会データ】

展覧会名 | FACE展2024  
会 期 | 2024年2月17日(土)―3月10日(日)  
主 催 | SOMPO美術館、読売新聞社  
特別協賛 | SOMPOホールディングス  
特別協力 | 損保ジャパン  
後 援 | 文化庁、東京都、新宿区



《溶けて》2023年 可溶性建染染料・蠟けつ染め・綿布・パネル 160×200cm

## 主な作品貸出協力

**20** 23年度は収蔵作品7点を5つ  
の展覧会に出品しました。なお  
「シュルレアリスムと日本」展  
は、3月から2024年度にかけて板橋区立美  
術館と三重県立美術館でも開催予定です。

#### ◆パブロ・ピカソ《宝石》

「スペインのイメージ：版画を通じて写し  
伝わるすがた」

長崎県美術館 4月8日―6月11日

国立西洋美術館 7月4日―9月3日

#### ◆横須賀幸正《諸行無常(時間)》

「海辺のプリズム 横須賀幸正展」

常陽藝文センター 藝文ギャラリー

5月31日―7月30日

#### ◆笠井誠一《二つの卓上静物》

#### ◆小杉小二郎《月・追憶》

「新たな時代のエトランゼ ―パリへ渡った  
日本人画家たち1950-70s―」

小杉放菴記念日光美術館

9月16日―11月19日

#### ◆東郷青児《超現実派の散歩》

「『シュルレアリスム宣言』100年 シュルレアリ  
スムと日本」

京都文化博物館

12月16日―2024年2月4日

#### ◆東郷青児《巴里の女》

#### ◆東郷青児《スペインの女優》

「マリー・ローランサン ―時代をうつす眼」

アーティゾン美術館

12月9日―2024年3月3日



X  
公式アカウント

@sompomuseum

Instagram  
公式アカウント

@sompomuseum

Facebook  
公式アカウント

sompomuseum

ホーム  
ページ

<https://www.sompo-museum.org/>

SOMPO美術館レポート No. 51

発行日 | 2024年3月(年1回発行)

編集・発行 | 公益財団法人 SOMPO美術財団

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1

デザイン | 若林純子

印刷 | 大城印刷株式会社

この街には、《ひまわり》がある。